

παραβολή

パラボレー

知っておきたいキリスト教のことば (130)

たとえ たとえ

聖書には、様々なたとえ話が載せられています。イザヤ書 5 章 1～6 節のように、ぶどう畑とぶどうを用いて、実を結ばないイスラエルの人々を批判するといった感じです。

たとえとは、身近な経験や習慣などを元に、他のもの(見えないもの)の意味を伝えるということです。前述のように旧約聖書にも何カ所か見られますし、ユダヤ教のラビも好んで用いたようです。

イエス様は、たとえを用いて神の国を伝えようとされました。日本聖書協会発行の「スタディバイブル」では、「読むためのガイド」の中で「イエスのたとえ」を列記しています。そこには 34 箇所のとえ話が挙げられており、そのうちの 18 箇所はルカ福音書にしか載せられていないものです。

聖書を読んでいて、「イエス様のとえは分かりにくい」という話を聞くことがあります。その理由は大きく二つあると思います。

一つは、イエス様のとえが当時のイスラエルの日常生活を基盤としているため、わたしたちが理解するためにはある程度の説明が必要だからということです。からし種と言われても見たことないし、羊がいなくなったと言われても羊の生態を知らないし。

もう一つは、イエス様はたとえを用いることで、あえて真実を隠されたから、という理由です。マタイ 13 章 10～17 節を読むと、そのことがわかるような気がします。

たとえを読むときには、その場にいるような気持ちになってみましょう。当時の生活習慣が分からなかったら、調べるのもいいかもしれません。またあまり、「○○はイエス様のこと」、「△△はサタンのこと」など、出てくるものを固定化せずに、そのとき感じたままに捉えるといいと思います。イエス様の声に、素直に耳を傾けましょう。

次回は「ダビデの子」です。楽しみに。



「種まく人」

ジャン＝フランソワ・ミレー

(1814～1875 年)

そこで、イエスは言われた。「神の国は何に似ているか。何にとえようか。」

(ルカによる福音書 13 章 18 節)

